

父の背中を見て

愛知県立農業大学校 農学科 酪農専攻 1年 竹内 凌

私の実家は、愛知県の知多半島の真ん中に位置する知多郡武豊町で、片側を山に覆われた小さな牧場で、酪農を営んでいます。育成牛約30頭、農地面積約25ヘクタールの小さな牧場で、現在、母と私の2人で牛達の世話をしています。

私は幼い頃から、牛や犬や山羊など様々な動物とふれあいながら、父や母が仕事をしているのを見て、手伝っていました。3年ほど前までは、育成牛約40頭の他に約70頭を搾乳していました。母は主に子牛の世話や必要な経費の計算などを行い、私はよく子牛の世話を手伝っていました。父は、ホイールローダーやショベルカーなどの重機の操作や、育成牛の分娩や発情管理を行っていて、搾乳は父と母の2人でやっていました。

父は、様々な資格を持っていました。家畜人工授精師やアーク溶接など、自動車の免許も各種取得していました。それらを駆使して何でもできてしまうような完璧な父親でした。そんな父も、今はもういません。3年前に亡くなりました。今は牛の数を減らし、母と2人で酪農を続けています。

私は、昔から牛が大好きで酪農が大好きで、実家の牧場を継ぐということにまったく迷いはありませんでした。しかし、現在の日本の農家の現状は厳しく、離農をしていく農家が後を絶たない状況の中で、新規に就農をする人たちが極めて少ない状況です。そんな中でも、私の実家が規模が小さいながらも安定して経営が続けられたのは、父の存在が大きかったと思います。それは、単に父の担当する仕事が多かったということだけでなく、他の農家なら業者や獣医にお願いしてやってもらうような、人工授精や機械・重機の修理、点検などを1人でやり、作業にかかる経費を最大限減らしてやっていたことが、最大の理由だと思います。

父は、昔からよく私にいろいろな作業を見せてくれました。「将来農業をやっていくときに必ず必要になる。だから今のうちに少しでもできるようになっておけ」、「1人でやれることが増えれば増えるほど作業量は増えるが、必要になるお金が減り後々楽になるから」とよく言っていました。私は牛舎の除糞やエサやりなどをしながら、度々父に呼ばれて後をついていき作業を見ていました。

そんなある日、父が作業中に私に聞いてきました。「お前は家の農業を継ぎたいか?」と。私はその時中学3年になったばかりで、まだ高校をどこにするかも決まっていないような時期でした。私は昔から親の仕事を見て手伝ってきたので、「まあ、多分継ぐ」と曖昧な返事をしました。作業中だったのもありその後はあまり話し込まずにその日はそのまま終わりました。

時間は流れ、いよいよ進学する高校を決めていかないといけない時期になったとき、父は

また私に聞いてきました。その時の私は、農業高校に進学をしてもっと知識を蓄えて、将来農業をやっていくために必要なことを身につけようと考えていました。私は「継ぎたい」とはっきりと返事をしました。父は「そうか」と、嬉しそうに返事をしてくれました。母も、私が将来農業をやっていくのに反対をしませんでした。

高校生になってからは、昔とは比較にならないほど作業量が増え、牧場の色々な作業も覚えて実際にやるようになりました。また、将来農業をやるなら家のことも詳しく知っておいた方がいいと、畑で栽培している飼料や牛に与えているエサについても教えてもらいました。そんな日々がずっと続くと思っていました。

ある時、父が大きな投資をすると言っていました。酪農をやっていく上で、どこの農家にも立ちはだかる大きな壁、牛糞の処理をするための機械を買うと言っていました。何かあるといけないと、父は健康診断を受け、その結果大きな病気が見つかりました。原因は、過労により身体への負担が過重になったことでした。仕事を続けるのが困難になり父は、私と母の2人でも作業ができるまで牛を減らしました。半分以上の牛がいなくなった牛舎はとても寂しく感じ、将来にも不安を感じるようになりました。

そんな中でも、私は愛知県立農業大学校へ入学をしました。私は、今まで以上に頑張ろうと思いました。少しでも母の負担を減らすために、必要な資格を取り父の代わりになれるように努力をしています。

今でも、私は実家の酪農業を継ぎたいという気持ちに変わりはありません。そのためにまず、大学で取得可能な資格である、家畜人工授精師やアーク溶接、それから大型特殊免許などの重機を運転する上で必要になる免許や、危険物取扱者など、取れるものは全部取りたいと考えています。また私の家には使っていないサイレージのタンクや農地があります。そこを最大限に活用するための発酵飼料や飼料作物についての知識を身につけていきたいと考えています。

負担となるために、売却をした牛たちのほとんどは搾乳牛です。それらを買戻して搾乳をやり、安定して収入を出すためには約2000万円は必要になると言われました。私は母と相談をして、搾乳を再開するのはだいたい先にすると決め、それまでは他の牧場に就農して必要となる資格などを取りたいと思っています。父のようにいろいろなことを管理ができるようになるまでは、現状のままでいくつもりですが、将来的には牛の頭数を増やして、かつ搾乳をやりたいと思っています。また、使っていないサイレージやタンクなどの活用や、結局導入できなかった牛糞の処理施設なども作ることを目標に、未来に家の牧場を残していきたいと考えています。

我が家の牧場は、私が継ぐと4代目となります。紡がれてきたこの家業を途切れさせないよう、愛知の酪農家として頑張っていきたいです。そのためにまずは今、愛知農大で学んでいる

ことをしっかりと理解し実践して、先生方の指導のもと、将来酪農をやっていく上で必要と
なってくるであろう技能と知識を養っていきたいと思っています。

今私の家は、牛を約40頭しか飼育していません。しかしながら将来は、100頭、200頭と
どんどん頭数を増やしていき、そしてその頭数を完璧に管理できる技術を身につけて、
亡くなった父と一緒に牧場を運営する母に、胸を張って誇れるような牧場にしていきたいと
思います。
